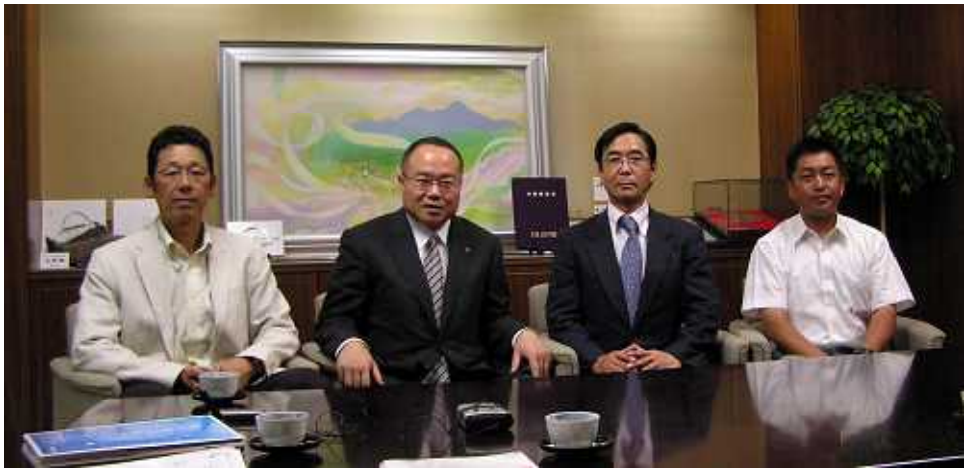
＜こんにちは「京丹後市長」＞



現代が求める価値を「丹後王国」から発信

中山　泰 氏（京丹後市長）
木村幹雄 氏（連合京都会長・自治労京都府本部執行委員長）
司会／**谷口富士夫** 氏（京都自治総研専務理事・自治労京都府本部書記長）

谷口　今日はお忙しいところ有り難うございます。実は、私は京丹後市の弥栄町出身でして、高校までこちらに住んでいました。山の中ですが、今でも家が残っています。そういうこともあり、京丹後市のまちづくりには注目しています。合併当初の市長としての4年間、どんな点にご苦労されましたか。

合併後の課題は住民意識の一体化

中山　京丹後市は、合併をして500 km²という広大な面積のまちができました。そのため、一体感をどうつくっていくかが大きな課題になりました。市役所は旧峰山町役場に本庁機能を、その他の役場には支所として市民局を置いています。市民局には一定の職員を配置していますが、合併前に比べると規模が小さくなり、住民の方からすると、どうしても行政との距離が遠くなり、行政サービスが落ちるのではないかという懸念が生まれました。いかにして、皆さんに一体感を持ってまちづくりに参加していただける環境をつくるか、というのが大きな課題となりました。当時は、移動市長室としてグルグル回ったり、住民の皆さんに総合計画策定委員会の委員になっていただいたり、住民の申出があれば職員が説明、意見交換に行く出前講座、意見箱の設置など、住民の皆さんが直接、市政に参加していただけるよう、腐心しました。

木村　合併にあたって、自治労京都府本部としても、住民自治の一層の実現や新たなまちづくりのために何が必要かということで、青年会議所の方々と一緒にシンポジウムを開催しました。京都府や丹後6町の後援を受けましたが、それぞれの町には個性や特色があり、まちに対する

住民の思い入れもあります。一体感の醸成は、どこの合併市町村も苦労するところですね。

中山　合併による規模のメリットを生かそうとすると、本庁を充実させる必要があります。支所は窓口機能が中心になり、職員数も半減しました。しかしそれをやりすぎると、市民局の機能しかない地域からは不公平感がでてくる。バランスをどうとるかが、今でも課題です。

財政的にも、三位一体改革で国からの地方交付税が減っているため、以前のように利益を配分するやり方から、痛みをどう分かち合うかに比重を移さざるをえない状況です。京丹後市としても財政改革に取り組み、職員にお願いして退職者不補充を行いました。4 年間で 150 人くらい減っています。そういう状況ですから、市民局はよりスリムにせざるをえない。しかしスリムでも筋肉質で強い体質をつくっていく必要があります。議会の皆さんとの関係も大切にしながら、行政懇談会など、住民参加による行政運営を心掛けています。

木村　簡単に「痛みを分かち合う」と言っても、理解を得るのはなかなか難しいですね。市長が市民の前に積極的に顔を出して、自分達のまちがどういう方向に進もうとしているのかを知っていただくことも重要です。

200 円均一料金で「空気バス」を 活性化

谷口　京丹後市は東西 35km、南北 30km と広いため、住民の多くは移動に車を利用しています。しかし交通弱者といわれる高齢者や学生は、どうしても公共交通が必要です。京丹後市では、バス事業において全国的に注目される取り組みをされ、自治労京都府本部主催の京都自治研集会では、職員が発表されることになっています。

中山　広い地域の一体化をはかるには、移動の確保が重要になってきます。バス網はそこそこ整備されていますが、同じ市なのに峰山から間人（たいざ）までは 700 円くらいかかっていました。700 円と聞いて、乗る人は少ないだろうと思いましたが、実際、ほとんど人が乗っていなかった。そういうバスに対して市は、6 町全域で 7000 ～ 8000 万円の補助金を、毎年出していた。もったいないなということで、検討を始めました。

木村　現在は、全域 200 円の均一料金になったのですか。700 円を 200 円にすれば利用客は 3 倍必要ですね。乗客は増えているのでしょうか。それとも補助金でまかなっているのでしょうか。

中山　全域ではなく、丹海バスの既存路線から始めています。1 年度は「峰山－間人」間でしましたが、好調だったので全域に拡大しました。今では、最大 900 円だったのを、上限 200 円としている区間もあります。

200 円にすれば収入が減ると思われがちですが、実際は乗客が増え、収入は上がっています。補助金も導入前の制度であった場合よりも減りました。従来の 700 円区間では、遠くにばかり乗らないので、平均の乗車賃は 300 円でした。単純計算すると、乗客が 1.8 倍になるとトントンです。それを超えるとプラスになる。現実は 2 倍になっています。

木村　丹海バスは連合の有力な組合です。いつも厳しい状態のなか、頑張っておられました。過疎地の路線バスは運営が厳しく、京都交通では、正社員を減らして嘱託社員で運行しています。運賃を下げることで収入が増えるという効果が表われたのは、非常に意義がありますね。

中山　運転手さんも喜んでおられると聞いてます。高校生が増え、高齢者の方も老人会などで出掛けるとき、200 円バスを利用されています。

木村　公共交通機関としての路線バスは、廃止

にできない。高齢者の通院などに「福祉バス」として残してほしいという要望は強い。料金を下げることで公共交通が活性化すれば、交通弱者にとっては大変、助かることになります。

中山　丹海バスも若干、路線を変更していただいて、病院に行きやすいようにしました。運賃だけでなく、通学や買い物に便利な路線をつくったりと、取り組みの幅も広がってきています。国交省からも評価していただいて、他県から視察に来られています。担当職員は、全国各地でこの取り組みを紹介しています。

病院は縮小より医師の確保が第一

谷口　市内には公立病院が、久美浜と弥栄の2カ所にありますね。住民にとっては必要な施設ですが、自治体にとっては財政負担が大きく、全国各地で存続が危ぶまれています。

中山　負担になっても、住民にとって必要な医療サービスは、安定的に提供するような環境づくりが必要です。2004年に新しい研修制度が導入されたことがきっかけとなり、公立病院の医者不足が深刻化、危機に陥りました。一般的に、医師1人の増減で収支に1億円の差が出ると言われています。医師が確保できれば経営的にも違ってきますので、とにかく医師の確保に市を挙げて取り組んでいます。経営改善のためにも、縮小の方向で考えるより医師を確保できるような環境整備に力を入れています。処遇に加えていろんな魅力をもたせることが大切です。

木村　京都府内では、府立大学のバックアップが重要だと思いますが、どういう体制になっていますか。

中山　久美浜病院は従来から府立大学のバックアップを包括的に受けていましたので、新制度の導入後も影響も受けずにきました。弥栄病院は、06年前後に医師不足に陥ったのですが、府立大学のバックアップを得ることができ、今、盛り返しつつあります。昨年は400人の赤ちゃんが、弥栄病院で誕生しました。

谷口　数年前、京丹後には産科がないと言われていました。私の妻は20年前に、2人のこどもを弥栄病院で出産しましたが、その頃は、医師も設備も充実していました。

中山　現在、京丹後市では、お産ができる病院として弥栄病院を維持しています。弥栄病院では、助産師さんにも外来を担当してもらっています。産科以外にも、内科や小児科と、どんどん医者を確保したいと思っています。

木村　公立病院に対する自治体からの財政負担は、財政健全化法の施行もあって、深刻な課題となっています。住民にとって安心できる医療体制の確立を、財政問題の側面からだけで判断するのは非常に危険ですね。

人づくり・機能づくり・販路拡大と体系的に工業団地の場づくりを

谷口　京丹後市は京都府の最北端で、自然は豊かですが、産業振興や雇用では困難な面が多いと思われがちです。しかし、昨年、経済産業省の「企業立地に頑張る市町村20選」に選ばれていますね。具体的にはどういう取り組みが評価されたのでしょうか。

中山　これまでの工業団地が一杯になったので、今、新たに大宮に造成中です。今の最大規模のものの約1.5倍。峰山の日本電産の跡地には、府の主導で、ものづくり人材育成センターを4月から稼働しました。網野では企業跡地を整備し、京都工芸繊維大学の京丹後キャンパスを誘致しました。販路拡大という面では、東大阪市のものづくりフェアに丹後としては初めてのブ

ースを設けてもらいました。

工業団地は、そこで働く人がいないと成り立たない。都会の近郊の町だったら、その町に人材がいなくても、都会から得られます。しかし我々のところは、工場が来ても働く人がいないとだめ。さらに、中小企業が発展していくためには技術開発のバックアップが必要です。単に下請けだけにとどまっていれば、発展の可能性は狭い。人材育成センターは人づくり、工芸繊維大学は機能づくり、東大阪は販路拡大。これを体系的にしていきたいと考えています。

実績はまだこれからですが、田舎が企業誘致のために体系的に取り組んでいるというのを評価していただいて、「企業立地に頑張る市町村20 選」に選ばれました。大変名誉なことだと思い、それを励みにしながら、これからもしっかりとやっていきたいですね。

木村　金属や機械系企業は、中国に新しい工場をつくるなどして、日本からどんどん出て行っています。京丹後市は織物産業など技術力が高い企業が多いですね。やはりそういった分野が中心になりますか。

中山　織物産業は大変、厳しい状況です。最盛期の 10 分の 1 以下。観光も今、そんなに伸びていません。潜在力はあり、これから発展しますが。支えていただいているのは機械・金属系の「ものづくり」産業です。面白いことに、弥栄町には、日本最古の大製鉄コンビナートと言われる「遠處（えんじょ）遺跡」があります。

谷口　大宮の造成している工業団地には、何社くらい入る予定ですか。

中山　今のところ 3 社ですが、ほぼ埋まっています。そこで働く人は 300 ～ 400 人。新規雇用は全体で百数十人になると聞いています。人材確保をはじめ、住む場所などの環境整備もしっかりやっていく必要があります。

京都縦貫道の整備が丹後の未来を開く

木村　綾部や舞鶴の工業団地は、高速道路も整備されているため、誘致に成功しています。物流は、もっぱら神戸・大阪方面が中心だそうですが、京丹後市では、工業誘致を考えると道路整備が重要になってきますね。

中山　将来的には、京丹後は絶対に繁栄すると確信していますが、そのためには京都との道路を早急に整備する必要があります。日本海側の小浜や敦賀とのラインができると、発展の可能性がさらに高まります。

道路整備はいろいろ批判があって、「高速道路ができれば逆に住民が逃げ出して、あまり意味がない」と言われる方もいます。しかし私はそう思いません。京都から 1 時間少しで来られるようになると、観光も含めて交流が進み、いい効果が必ず出てくると思います。大都市圏の社長さんの話だと、物理的距離よりも時間的距離を問題にされる場合が多い。距離が長ければ燃料費などの費用がかさみますが、時間的に速いこと、より重要な面があります。

名古屋方面からは、京都で降りず大阪に抜けて、高速で来られる人が多い。京都市内は渋滞するし、綾部までの道路も細いですからね。京都から 1 時間そこそこで来られるようになると、京都市内に来る 5000 万人の観光客に対してＰＲできます。絶対、道路は大切だと思います。特に京都縦貫道を早期に完成して欲しいですね。鳥取、豊岡、宮津、そして小浜、敦賀とも時間的に近くなれば、産業面でも発展がおおいに期待できるし、観光も期待できます。

木村　観光では、宮津市が天橋立を世界遺産に登録しようとしています。認められれば、京丹後にも観光客を呼び寄せることができますね。

中山　京丹後でも、京都府と兵庫県、鳥取県の「山陰海岸」を、ユネスコの「世界地質公園ジオパークネットワーク」への加入をめざしています。日本列島ができた時の地質が、いろいろな形態でよく現れているようです。日本委員会ができていて、秋には第 1 号が指定される予定

です。糸魚川のフォッサマグナや洞爺湖、島原とうちの山陰海岸など 4 つ、5 つが本格的な取り組みを進めています。うまくけいけば日本最初の世界ジオパークになって、世界中から観光客が来ます。

豊富な生物由来資源で新事業の創造

谷口　環境政策では「バイオマスタウン構想」を打ち立てられ、環境大臣賞を受けられました。具体的にはどのような内容ですか。

中山　「循環・共生・参加まちづくり表彰」です。ＮＰＯ法人「エコネット丹後」による廃てんぷら油回収活動を市全域で協力できるよう、市内の資源ごみ収集所に回収容器の設置を推進したり、「エコドライブ普及促進事業」では低燃費の誘導車載器を市民に貸し出しています。風力発電への助成を充実したことで、36 基完成しました。弥栄には国内最先端のバイオガス発電施設、京都エコエネルギー研究所ができています。市では「地球温暖化対策実行計画」を 06 年度に策定し、04 基準で 9.2 %の削減を達成しました。そういう取り組み全体に対して、環境大臣賞をいただきました。

谷口　それをさらに推し進めようというのが「バイオマスタウン構想」ですか。

中山　少しニュアンスは違うんですが、生物由来の資源がたくさんありますので、そういう資源を活用したまちづくりをしていこうという構想です。今年は、古木や木屑からバイオプラスチックをつくる技術を生かした取り組みを始めています。市内の主だった企業から出資を募り、核となる研究所を中心にバイオプラスチックの生産を始めます。

谷口　製品はどんなものに利用するんですか。

中山　工業繊維として利用します。捨てても自然に還ります。3 月の補正予算で、国から数千万円の補助金をいただきました。バイオマス発電や食品の残りの滓を肥料化する取り組みも一緒にします。

木村　まちおこしや地域活性化のためには、その地域にどういった資源があるかをみつける視点や、掘り起こしが必要です。それを見つけるのがなかなか難しく、どの自治体も一所懸命になっています。京丹後では、豊かな自然をバイオプラスチックの製造という地域産業起しに結びつけておられるのは、大変、将来性のある観点ですね。

中山　ここには多様な資源がたくさんあると思っています。歴史学者の門脇禎二先生によると、古墳時代にヤマト王権と並ぶ、独立性をもった「丹後王国」があったと言われています。日本海側の 3 大前方後円墳が全部、丹後にあるとか、卑弥呼に魏王が出されたとされる鑑が残っています。日本 3 大羽衣伝説の１つや浦島伝説の原型が『丹後風土記』に書かれ、浦島太郎を祀る浦嶋神社があります。久美浜にはスサノオノミコトが出雲に行かれる前に、久美浜に滞在されたとされるスサノオノミコト伝説もあります。歴史的にかなり古い地域で、魅力があります。

　地理的には、近畿の北の端、山陰海岸国立公園の東の端、北陸の西端です。しかし端っこのように見えて、裏を返せば我々のところから近畿が始まって、山陰が始まって、北陸が始まっている。日本列島全体を見た時、地勢的にはすべての出発点だといえます。こう言うと、聞いている人はシーンとなるんですけど。昔、丹後半島に朝鮮半島や中国から、人や文化が流れてきたように、ここには環境、健康、癒し、歴史など現代が求める価値の原石がたくさんある。それをいかに磨いて育み、日本全国に発信していく役割があるのではないかと思います。

2 期目への展望
健康･環境･癒し･再生がキーワード

谷口　今年 4 月で市長として 2 期目を迎えられます。今後、京丹後の市政を担われていくうえ

で、展望や抱負をお聞かせ下さい。

中山　京丹後には 100 歳以上の人が 50 人以上おられます。人口比では京都府内第 1 位。全国平均の 3 倍以上です。最長寿の方は 111 歳の男性。世界最長寿の方は 113 歳で宮崎の方。その方とは 1 歳半しか違いません。羽衣天女は万病に効く酒づくりが得意でした。浦島伝説もある意味で不老長寿の要素があります。不老長寿、大長寿に関係する言い伝えが残り、実際に大長寿の人が多いことをしっかりと「ウリ」にしたいと思っています。

海・山・里でとれる農産物でも、コシヒカリは「おしいさ評価」で「特A」です。滋賀以西の西日本では、ここが唯一、最高です。「健康」「環境」「癒し」「再生」がキーワード。先ほどのバイオガス発電で、食べ滓をエネルギーにするのも「再生」です。日本一のピッチャー再生名人の野村克也さんは。京丹後出身です。長寿も命の「再生」です。いろんな分野でそれを「ウリ」にしていけば、自ずと賑わい、活性化につながっていくと思います。そんなまちづくりを長い目でしていきたい。

そのためにも当面は、産業、雇用に取り組まなければなりません。まず道路交通網の整備が、大きな課題です。情報通信網の整備では、宮津市や伊根町、与謝野町と一緒に、全国のモデル地域として地域密着型の携帯電話通信事業「ふるさとケータイ事業」の実験を始めています。通信環境が整えば、田舎であろうが、都会だろうが、関係ありません。そのために、情報通信の整備によるまちづくりもしていきたい。

病院も、「健康」をキーワードに丹後ならではの特色ある取り組みをしていこうと考えています。温泉もあるわけですし、健康、観光、医療の分野の連携を考えています。

木村　未来へ大きな展望が開かれていますね。お話を聞かせていただき、有り難うございます。ただ我々としては、行政出資の派遣会社が気になるところです。自治労では、入札事業者も含めて自治体に関係する職場の労働者の賃金は、生活できる水準にすべきではないかと考え、「公契約条例」の制定に取り組んでいます。派遣会社として、低賃金労働者を生み出す仕組みには疑問も持っているのですが。

中山　今日、たまたまお話の派遣会社である「総合サービス会社」の株主総会がありました。順調なすべり出しで、利益も出ています。この会社は、市に対する派遣だけでなく、民間企業十数社にも派遣しています。直接雇いのアルバイトと比べて何がいいかというと、資格をとるよう奨励しています。例えば給食調理員さんには、調理師免許を取得するための助成金を出しています。ある意味で労働環境の改善につながっています。しかし、もちろんデメリットもあります。そういうデメリットにも注視して、市として必要な点は改善していきたいと思います。

木村　派遣は短期雇用が中心です。派遣先で正規職員と同じ仕事をしていても、時間あたりの単価はかなり低いのが実態です。労働組合としては、同一労働・同一賃金、非正規の正規化が最も重要だと考えています。現在、ワーキングプアが問題となっていますが、地域雇用の確保が低賃金労働者をうみだし、地域全体の賃金を引き下げるというようなことにならないよう、是非、注視していただきますようお願いします。

谷口　インタビューを前に、京丹後市の施策について調べてみましたが、多岐にわたる分野でさまざまな、それも先進的な取り組みをされておられるのを知り、驚くと同時に、京丹後市が明るく輝く自治体に変貌しつつあるように見えました。京丹後市の未来に期待して、終わりたいと思います。どうも有り難うございました。